

大阪市南部地域交流会ニュース (登校拒否を克服する会)

2021.1.24

寒い日が続いていますが、みなさまいかがお過ごしですか？今年もよろしくお願ひいたします。コロナもますます広がり緊急事態宣言も出され、参ってしまいます。とりあえずうがい・手洗い・手の消毒など、できることで対応する他ありません。大阪の交流会や南部交流会も中止になっていますが、3月の交流会、4月の南部でお会いできますように、それまでご無事でいてくださいね。

昨年11月29日にさざんか会館で「講演と無料相談会 in 住之江」に教育相談おおさかの先生方と取り組みました。「ひとりで悩まないで！子ども・若者の立ち上がる力をひきだすには」と題して青木道忠さんに講演をして頂きました。取り組みと講演の感想の一部を掲載します。

久しぶりに青木先生の話の話を聞きました。今の学校の異常な状況をわかりやすく話してくれてよかったですと思います。後半の事例の話で「まあ、いいか」と思えるようになることの大切さ、自分の娘の成長を見ている共感できました。

交流会は関係者ばかりでした。気楽に思ったことを話せてよかったです。厳しいけれど学校現場に光を見出し支援(応援)していければと思います。

本日の青木先生の講演は、私の長男の小学・中学・高校時代の頃と重なり、子どもが苦しんでいた気持ち、今現在も悩み自分探しをしていて、一人で苦しんでいると思うと、親としていたたまれず、振り返るといろいろな信号を発信していたと思います。

私も勉強して、子供の成長を見守り、深く深く長い目で一緒に考えていきたいと思っています。とても勉強になり感動し、私は何をしていたんだろうと反省もしました。そして涙溢れました。ありがとうございました。

加賀屋での相談と講演会について…南部世話人(K)

今回は自分達の住んでいる地域なので、私達が中心になり会場を決めたり、ポスターをつくってチラシと共に貼ってもらえる所をお願いして回りました。例えば区役所、神社、商店街のお店、お風呂屋さん、保育所、学童保育所、新婦人、民商などです。何回か学校回りもしたけれど、全く違う反応で、ゆっくり話も聞いてくださり、ポスターを貼るのも快諾して頂きました。後日問い合わせもありました。残念ながらコロナ感染が再度拡がりつつあった中でしたので、来場者は少なかったのですが、ゆったり温かい会になりました。後日にポスターを貼って下さった所にお礼の電話をさせてもらいました。地域での今までの繋がりを活かして私達の活動を知ってもらい、1回だけではなく又連絡させてもらうという繋がりが少し太くなったような気がします。

次回の南部交流会 お花見です！

(当日開催しているか、全国連のホームページ又は携帯で確認してください)

日時 2021年4月4日(日)

午後12:30～午後4:00

場所 あかつき保育所・寺田町公園

大阪市天王寺区勝山2-13-25

(JR環状線寺田町駅 北出口徒歩15分寺田町公園近く)

☆ お弁当をご持参ください

相談員 馬場野先生 参加費 500円



< これからの予定 >

3月20日(日) 第209回交流会 1時～5時 エル大阪6F

6月20日(日) 南部交流会 午後1時30分～5時 あかつき保育所

【教育相談おおさかの機関紙「わかくさ」12月号に掲載されていたのを許可を得て転載しました。南部ニュースの紙面の都合により縮めています。丁寧に取材をして書いて頂いたのに申し訳ありません。ありがとうございました。(t)】

大阪市南部地域交流会の巻



10月25日午後、快晴のたいへん気持ちの良い日に、大阪市南部地域交流会を編集員二人でお訪ねしました。JR環状線寺田町駅から徒歩10分くらいの、公園の前にある「あかつき共同保育所」の1階和室でした。
(編集部：浅野とも子・松田貴雄)



お菓子をつまんで 近況報告

参加者は、世話人さん3人、元当事者2人（久しぶりに参加のAさんと交流会に毎回参加で世話人格のBさん）、馬場野先生（助言者）、それに私ども2人の計8人。

お話は、始めに自己紹介を兼ねて、それぞれの近況報告がなされました。娘さんがそれまでとは全く違う職種を目指して職業訓練校へ入られたこと、以前の職場での出来事が今でも心に影響していること、また別の方は、近くの薬局でパートとして働いている娘さんが、昼食を取りに帰宅した後、午後から出勤せず、今日は何とか元気には行ったけれど、自分からはまだ休みなど申し出ることができないでいること。（「でも週に1回2時間働いて1週間ひっこんでいた時期のことを思えば、元気になったねえ」と横からの声あり）良くしてもらった職場があったからこそ、自分で仕事を探してくるようになって、ありがたかったことなど、語られました。



若者2人の話に 驚いて 感心して ほっこり

Aさんからは、30歳になり、かつて通っていた通信制高から声をかけられて来春転職すること、将来学校法人を作りたいので、今フリースクールにかかわって運営の仕方などを学んでいること、少人数学級実現の運動や地域活動など、精力的に活動されていることなどが報告され、世話人さんたちを驚かせました。そして何より、世話人さんたちが喜ばれたのは、小2からずっとこの会で一緒だった4人の幼馴染の方々が、それぞれ自分の道を見つけて、結婚したり子どもができたりにしておられる消息の報告でした。

Bさんは、GMマガジンに応募して掲載されたキャラクターの絵を見せてくれました。可愛いキャラクターで、みなさん、思わず感嘆の声。場が和みました。

そして、ひと通り、変化にとんだ自己紹介が終わったところで休憩。



平野で始まり30年 居心地の良さが原点

南部交流会は、今は少人数ですが、その分、一人ひとりが思いを十分にありのままに出し合うことができ、深くつながっておられると感じました。Bさんが世話人と一緒に動いておられるのも、その居心地の良さを象徴しているようです。親ごさんたちもそうですが、Bさんにとってもこの交流会が居場所なのだと思います。

もともと、平野の石井守先生の不登校生のための塾で始められ多くの参加がありましたが、先生が体調をこわされて移転、結局今のところで世話人を中心に続けてこられました。30年近くの歴史を刻みます。ニュースも、2か月に1回発行しておられ、最近コロナで交流会ができなかったときは、コロナの中で、毎日どのように過ごしているか、原稿を寄せ合って報告をしたそうです。

どうか、皆様お元気に、南部交流会が、この固いきずなで長く活動を続けられますようにと願いながら帰途につきました。ありがとうございました。

